

支援者向け

# 2022年度 外国につながる

## 家族と子どもへの相談支援

# オンラインセミナー



外国につながる家族やその支援者からの相談は、背景事情がわかりにくいために評価や支援が難しい事例が多くあります。

ISSJは、2020年度より相談支援者向けのオンラインセミナーを実施してきました。今年度は、専門家や実務に関わる方を講師として招き、4つのテーマで開催します。

### テーマ1 難民の定住支援

詳細は裏面へ

「定住支援」とはいったい何を意味するのでしょうか。難民の背景を持つ人々が、新たな地で生活を再建する際に必要となる支援について3つの視点からお話しいただきます。

第1回

第2回

第3回

6/25 (土) 10:30-12:00

7/16 (土) 10:30-12:30

7/23 (土) 10:30-12:00

1テーマ 3250円

※テーマごとの購入のみ  
テーマ内全3講演分が含まれます

Peatixサイト

お申込みは  
Peatixから



メールでお申込みをご希望のかたは  
issj@issj.orgに件名を「オンラインセミナー」  
として、メールでお問合せください

### テーマ2 多文化・多言語環境にある 子どもの育ちを考える

詳細は裏面へ

外国につながる子どもたちは、家庭内の文化や言語と社会生活上(保育園や学校など)慣れ親しんでいく文化や言語が異なることがあります。そのような子どもたちを理解し、家族を支えていくために、私たちはどのような関わりを持つことができるか、3回の講演で学びます。

第1回

第2・3回

8/20 (土) 10:30-12:00

9/19 (月・祝) 13:00-16:00

### テーマ3 社会的養護下にある外国籍の子どもの支援

2022年10月-12月開催予定

2020年度に実施された厚生労働省の調査によると、約4割の児童福祉施設に外国籍児童が入所していることが明らかになりました。こうした背景からも社会的養護下にある外国にルーツのある子どもの支援の必要性は高まっていると言えます。テーマ3では、ISSJの実践に基づく手続きや留意点をはじめ、弁護士による無国籍児童の国籍取得手続きの講義、アセスメントの事例紹介を行います。

第1回

養子縁組手続きと留意点

第2回

無国籍児童の国籍取得

手続きと関係機関との連携

第3回

外国籍児童に関する

アセスメント(家族関係と家庭環境の調査)

イギリスの取り組みと実施例

### テーマ4 国境を越えて移動する子どもの支援

2023年1月-3月開催予定

外国にルーツのある子どもたちの支援では、本国の大天使館等との連携が必要ですが、支援者としてどのようにつながればいいのか、分かりにくい現状があります。そこでテーマ4では、第1回で日本で暮らす多様な背景をもつ外国籍の子どもたちの実情と直面する課題について全体的な概要を学びます。第2回、第3回は大使館から講師を招き、出生登録や国籍取得など実践的な支援方法を学びます。

第1回

子どもたちの実情と  
直面する課題

第2・3回

実践編  
国ごとの出生登録や国籍取得の手続き

CONTACT  
主催

✉ issj@issj.org ☎ 03-5840-5711

社会福祉法人 日本国際社会事業団(ISSJ) 〒113-0034 東京都文京区湯島1-10-2 御茶ノ水K&Kビル3F

IS  
International Social Service JAPAN

テーマ1

# 難民の定住支援

第1回

6月25日(土) 10:30-12:00

## 難民支援とソーシャルワーク

講師/ 葛西伶 氏 (UNHCR駐日事務所法務部)

ローランス大学(スイス、心理学部)、キングス・カレッジ・ロンドン(イギリス、MSc. War & Psychiatry)卒業。外資系総合コンサルティング会社にて金融機関の業務改善、会計システム導入等のプロジェクトに従事後、2019年より国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所法務部に入所。シニア法務アシスタントとして、政府、企業、NGO、教育機関等と、日本に暮らす難民の社会統合に関する分野の連携促進に取り組む。UNHCR難民高等教育プログラム(RHEP)や難民専門学校教育プログラム(RVEP)等担当。

第2回

7月16日(土) 10:30-12:30

## 難民の適応障害とうつ

講師/ 鶴川晃 氏 (大正大学教授)

多文化間精神医学会 理事、現職は大正大学 社会共生学部 公共政策学科教授。専門は文化人類学、多文化間精神保健学であり、難民や移民の心身の健康問題や、異文化適応の課題、様々な生活様式の背景にある文化理解についての研究を行っています。最近ではベトナム人の妊娠・出産に見られる文化実践の変容、ベトナム人の性と生殖の健康と権利を守る心理教育のあり方について調査、報告を重ねています。

第3回

7月23日(土) 10:30-12:00

## 難民の子どもの学習と課題

講師/ 矢崎理恵 氏 (社会福祉法人さぼうと21)

国際基督教大学で日本語教育を専攻し、卒業と同時に青年海外協力隊に参加、フィリピン外務研修所で日本語教師のキャリアをスタートさせる。帰国後、主として日本語学校で予備教育の日本語教育に携わる。学生時代から、「国際協力」と「日本語教育」が関心のあるフィールドであったことから、2006年、社会福祉法人さぼうと21において学習支援室コーディネーターとなり、難民の自立支援にかかわるようになり、現在に至る。

講師/ マリップ・センブ 氏 (NPO法人PEACE)

ミャンマー/カチン族。1992年に難民として来日。2012年にミャンマー・少数民族を支援するNPO法人PEACEを発足、理事長就任。教育事業と平和構築事業を軸に、成人を対象とした日本語教室事業や、ミャンマールーツの子どもを対象としたミャンマー語教育事業を運営。在日難民による難民連携委員会の事務局長。4児の母。

テーマ2

# 多文化・多言語 環境にある 子どもの育ちを考える



主に、乳幼児期(0~6歳)  
の子どもについて  
とりあげます

第1回

8月20日(土) 10:30-12:00

## 外国にルーツのある 子ども・家族支援の実際

講師/ 南野奈津子 氏 (東洋大学教授)

東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科教授。博士(社会福祉学)。研究テーマは児童家庭福祉、多文化ソーシャルワーク。日本社会福祉士会、日本国際社会事業団、NPO等で外国人支援業務や社会活動に従事。主な著書に『外国人の子ども白書』(共編著、明石書店、2018年)、『いっしょに考える外国人支援』(編著、明石書店、2020年)、『女性移住者の生活困難と多文化ソーシャルワーク』(単著、明石書店、2021年)。

第2・3回

9月19日(月・祝) 13:00-16:00

## 多文化・多言語環境にある 子どものことば・発達・関わり方

理論編 講師/ 奥村安寿子 氏 (東京大学 大学院総合文化研究科 特任研究員)

中学・高校をアメリカで卒業し、自身も多言語の背景を持つ。北海道大学大学院教育学院博士後期課程修了、博士(教育学)。国立精神・神経医療研究センター、東京大学高大接続研究開発センター、日本学術振興会特別研究員PD(国立精神・神経医療研究センター、一橋大学)を経て現職。専門は実験心理学、特別支援教育。文字の認知・発達・障害の研究を進める傍ら、各地で教育相談、心理アセスメント、ことばの指導等を行う。バイリンガル・マルチリンガル子どもネット(BMCN)相談員。

実践編 講師/ 東谷知佐子 氏 (NPO法人 HATI JAPAN 代表理事 公認心理師、臨床心理士)

NPO法人HATI JAPAN多文化多言語の子ども発達支援 代表理事。専門は発達臨床心理学。早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程を単位取得退学後、複数の大学で講師を務め、関東近辺の発達支援施設、医療機関等で臨床に携わる。学校、園との連携も多い。外国ルーツの子どもの発達支援を目指して2019年HATI JAPAN 設立。中野区鷺宮地域で外国ルーツの人々の居場所作りにも取り組んでいる。バイリンガル・マルチリンガル子どもネット(BMCN)相談員。

支援者向け

外国につながる  
家族と子どもへの相談支援  
オンラインセミナー

テーマ3と4の詳細はWebで  
[seminar2022.issj.org](http://seminar2022.issj.org)

Supported by 日本 THE NIPPON  
財團 FOUNDATION